

研究・調査報告書

報告書番号	担当
406	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The aetiology of symptomatic gallstones quantification of the effects of obesity, alcohol and serum lipids on risk. Epidemiological and biomarker data from a UK prospective cohort study (EPIC Norfolk). 症候性胆石のリスクに関する肥満、アルコールや血清脂質の定量化の病因論—イギリスの前向きコホート研究(EPIC Norfolk)からの疫学・バイオマーカーのデータ	
執筆者	
Banim PJ, Luben RN, Bulluck H, Sharp SJ, Wareham NJ, Khaw KT, Hart AR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
European Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2011 Aug; 23(8):733-740.	
キーワード	
病因論、アルコール、コホート研究、胆石、肥満、血清脂質	
要旨	
目的： 胆石の進行は肥満やアルコールにより影響される。この研究は、初めてヨーロッパの前向きコホート研究を用いて、これらのリスクを正確に定量化し、また病因メカニズムに血清脂質が含まれるかどうかを調査することを目的としている。	
方法： The European Prospective Investigation into Cancer-Norfolk(EPIC-Norfolk)では 1993 年～1997 年の間に 40 歳から 74 歳までの男女 25,639 名がリクルートされた。登録時体重、身長、アルコール摂取量が記録され、血清中性脂肪、コレステロール(HDL 及び LDL)を測定するため随時血液試料が採取された。コホートでは 14 年間の症候性胆石について観察された。共変数で調整した男女別の症候性胆石のハザード比を Cox 回帰により推定した。	
結果： 症候性胆石は 296 名(うち 67.9%が女性)で新たに発見された。男性での BMI の調整ハザード比は 1.08(95%信頼区間=1.02～1.14)で、女性においては同様に 1.08(95%信頼区間=1.06～1.11)であった。男性では週間アルコール摂取量に応じて 3%リスクが減った(調整ハザード比 0.97、95%信頼区間=0.95～0.99)が、女性では影響はなかった。血清中性脂肪はリスクを増やした—男性(ハザード比 2.02、95%信頼区間=1.03～3.98)、女性(ハザード比 2.43、95%信頼区間=1.52～3.90)。HDL コレステロール増加はリスク減少と関連していた—男性(ハザード比 0.22、95%信頼区間=0.09～0.52)、女性(ハザード比 0.55、95%信頼区間=0.36～0.85)。血清の総コレステロール及び LDL コレステロールは何の影響も見いだされなかった。	
結論： 肥満とアルコールは胆石の形成に影響し、おそらく一部は血清脂質の影響を通してのものである。胆石発症例の 38%が BMI25 以上であることから、肥満を減らすことで胆石を防ぎうると考えられる。	